

「男性特有の皮膚生理と香りのスキンケア」

資生堂は、近年高まりつつある男性のスキンケアニーズにこたえるため、男性特有の皮膚生理について日本とフランスで調査を行いました。その結果、男性の肌は女性と比較して、皮脂量が多い反面、水分蒸散量も多いためバリア機能が低く、皮膚表面のきめが乱れがちであることが明らかになりました。さらに、男性特有のひげ剃り部位について、ひげを剃らない部位に比べて、特にバリア機能が低下し肌トラブルを起こしやすいことを確認しました。

また、このような男性特有の肌のバリア機能低下に対し、鎮静効果のある香料を嗅ぎ心理的ストレスを緩和することで、改善効果があることを確認しました。

資生堂はこれらの知見を応用して、世界の男性をターゲットとしたプレステージ男性用スキンケア化粧品を開発します。

男性の皮膚生理

多くの男性が肌について「脂っぼい」、「肌あれしがち」などの悩みを挙げていますが、女性と比較してスキンケアに関する情報が少なく、なかなか適切なお手入れができないのが現状です。そこで資生堂では、20～50代の男性の皮膚生理について日本とフランスで、詳細な調査を行いました。(2003年3月、日本人男性90名、フランス人男性80名に対して実施) その結果、日本・フランス両国とも、男性の肌は女性と比較して①皮脂量が多い ②水分蒸散量が多くバリア機能が低下している ③その結果として肌のきめが乱れがち、であることが実証されました。特に、男性特有のひげ剃り部位では、*CEの成熟度が他の部位より低下しており、毎日のひげ剃り行為がバリア機能の低下に拍車をかけていることが判明しました。

- * CE(コーニファイドエンベロープ)の成熟度:CEとは角質細胞を包むタンパク質の膜状構造のことで、バリア機能の好不調の指標となる。通常、角質細胞が肌の内部から表面に上がってくる段階で成熟するが、バリア機能が低下している肌では多数のCEが未成熟のまま表面に現れる。資生堂では、成熟、未成熟の判断をビジュアルで評価する方法を確立している。

香りによる男性の皮膚改善

資生堂では、長年にわたって「こころと肌」すなわち全身の神経・内分泌・免疫などのシステムと皮膚との関わりについての研究を進めていますが、その中に香りが皮膚に及ぼす影響に関する研究(アロマロジー研究)があります。これまで女性を対象とした実験で、鎮静効果のある香料がストレスを緩和し、皮膚のバリア機能の回復を促進することなどを明らかにしてきました。

今回は、男性を対象により詳細な実験を行ない、鎮静効果のある香料がストレスを緩和し、皮膚のバリア機能を回復するのに有効であることを確認しました。(2003年3月、日本人男性60名に対して実施) この実験では、多忙な男性ビジネスマンを対象に、鎮静効果のある香りを継続的に嗅ぎ続ける環境下で日常生活を4週間過ごしてもらい、その前後でストレスの度合いを調べました。

その結果、自己申告によるストレス度合い、アンケートによる潜在意識下のストレス測定、唾液中のコルチゾールレベルなどのストレス指標が、香料を使用しなかったグループと比較して、香料を連用したグループでは明らかに低減しました。また、同じ実験で皮膚に及ぼす影響を、前述のCE成熟度を指標として調べたところ、香料を連用したグループでCE成熟促進が認められ、バリア機能が回復傾向にあることがわかりました。

男性用スキンケア化粧品への応用

資生堂は以上のような男性特有の皮膚生理についての発見に基づき、女性と比較してバリア機能が低く、肌のきめが乱れがちな男性の肌のために、保湿など肌にダイレクトな効果のあるスキンケア機能に加え、ストレス緩和効果のある香料によるスキンケア効果をあわせ持つプレステージ男性用スキンケア化粧品を開発します。

(以下余白)